

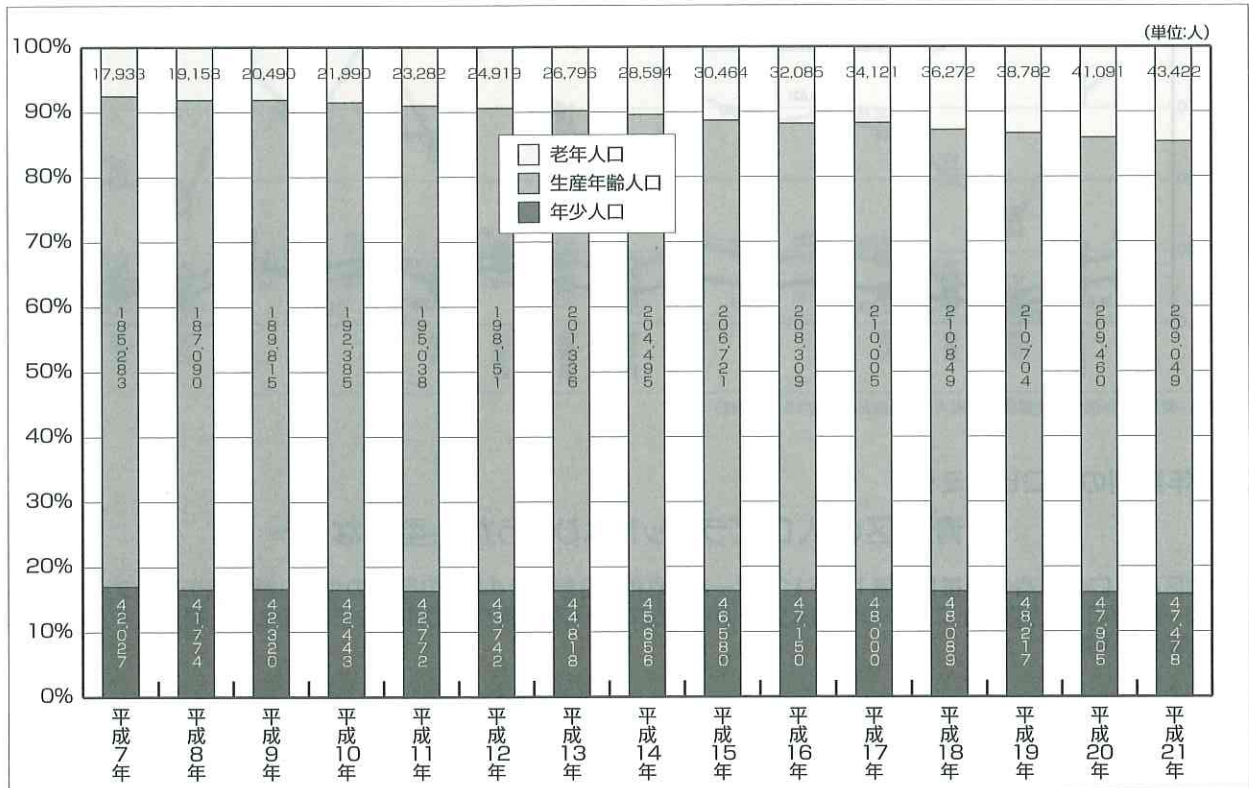
(5) 年齢3区分別人口の推移

～ 青葉区の老年人口は、年々、増加している～

年齢3区分別人口とは、「年少人口(0～14歳)」、「生産年齢人口(15～64歳)」、「老年人口(65歳以上)」に分けて示すことをいいます。なお、青葉区の年少人口は、市内で一番多くなっています。

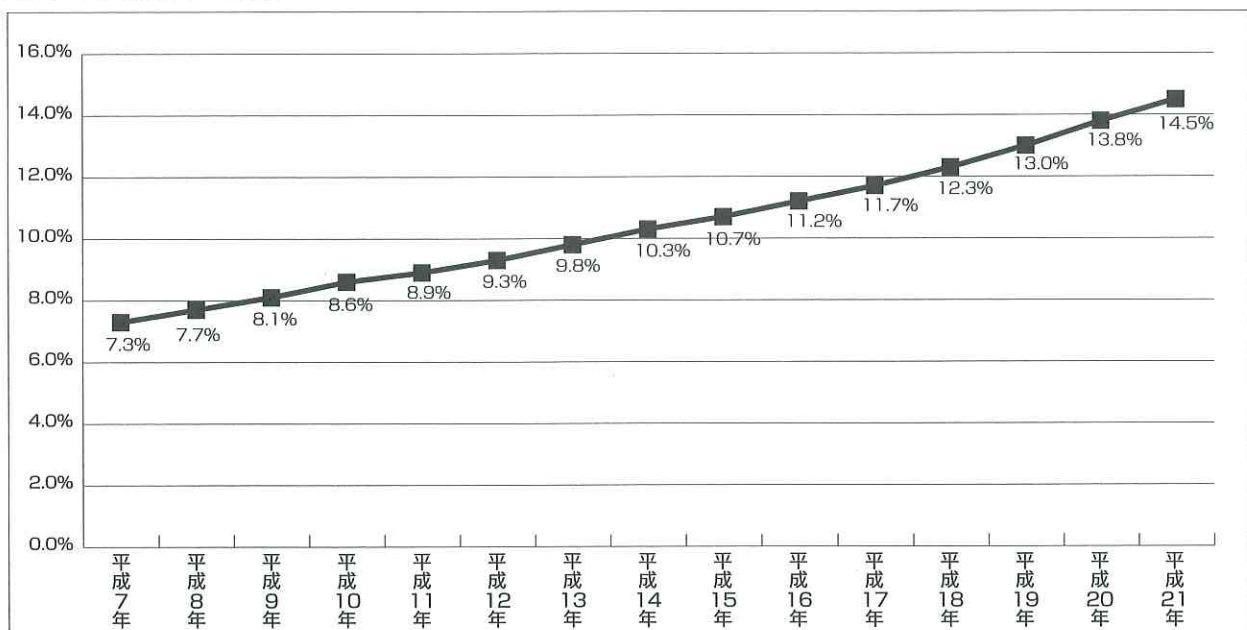
青葉区が誕生してからの高齢化率(総人口÷65歳以上人口)の推移を見てみると、年々、上昇していることがわかります。

●青葉区の年少人口・生産年齢人口・老年人口の推移



※資料：横浜市町別・年齢人口(各年とも、3月31日現在)

●青葉区の高齢化率の推移



※資料：横浜市町別・年齢人口(各年とも、3月31日現在)

なるほどあおば2009

(6) 18区別の年齢3区分別人口

～ 市内では、青葉区の年少人口(14歳未満)は、トップ～

年少人口は、市内で1番多く、また、生産年齢人口も市内で2番目となっています。
 老年人口は、市内で9番目ですが、前ページでも示したとおり、年々、増えており高齢化が進んでいることがわかります。

●18区の年齢3区分別人口



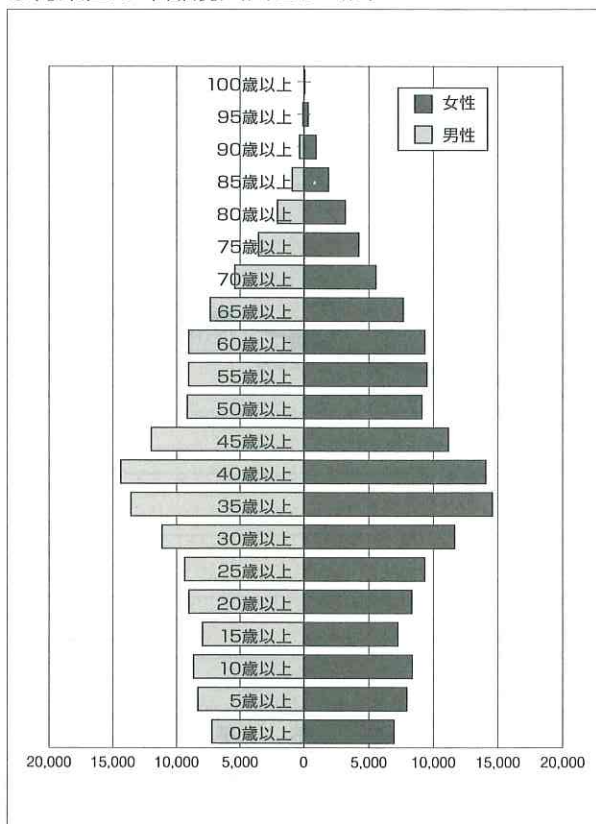
※資料：横浜市・各区別 年齢別男女別人口(平成21年3月31日現在)

(7) 年齢別の人口ピラミッド

～ 青葉区の人口ピラミッドはひょうたん型になる～

青葉区の人口の構造の特徴は、第1次ベビーブーム(昭和22年～24年)の団塊の世代、第2次ベビーブーム(昭和46年～49年)の団塊ジュニアの年代の人口を中心として膨らみを持ち、人口の少子高齢化を反映した「ひょうたん型」となっています。

●青葉区の年齢別人口ピラミッド



●横浜市内の年齢別人口ピラミッド

